

安心して暮らせるまちづくりのために

栄・防災ボラネット通信

発行：横浜栄・防災ボランティアネットワーク

24 号
2017-11

2017 年度 災害対策研修会 第 2 回研修会 開催案内

災害時、災害ボランティアセンターや地域防災拠点、行政等がどのように連携し合うのか、相互の意見交換を通して理解を深めるため、研修会を開催することと致しました。
ぜひご参加ください。

クロストーク「災害時の連携にどう備えるか」 ～ 地域とのつながりを目指して ～

・ 日 時 12 月 9 日（土） 13：30～16：00

・ 会 場 栄区役所新館 4 階会議室 8・9 号室

・ 内 容 1. 地域防災拠点について

栄区役所 総務課 危機管理担当係長 伊藤 徳経

2. 災害ボランティアについて

栄区社会福祉協議会 事務局次長 和泉 秀朗

3. クロストーク（意見交換）

・ 対 象 地域防災拠点関係者等、防災に関心のある方

主 催 横浜栄・防災ボランティアネットワーク

栄区社会福祉協議会

後 援 栄区役所

※当日、直接会場へお越しください。



「クロストーク」 昨年の様子

お知らせ!

第 12 回 災害ボランティアセンター開設・運営訓練

・ 日 時 2018 年 1 月 9 日（火） 10：00～12：00

・ 会 場 栄図書館（予定）

<活動報告>

○第 11 回災害ボランティアネットワーク Bブロック会議報告 (港南区担当)

日 時 10月17日(火) 18:30~20:00

会 場 港南中央地域ケアプラザ

平成 29 年度 2 回目となる B ブロック会議は港南区で開催されました。今回は実際に B ブロックメンバーが港南区災害ボランティアセンターへ応援に行く事を想定し、受付班、マッチング・送り出し班、依頼・活動報告受付班に分かれて、それぞれの流れを確認し、情報交換をしました。例えば受付班では、大まかな流れを確認した後、それぞれの受付シートの違いを出し合いました。大きな違いはなく、区で連携する上で使用する書式などがなるべく統一されているといいという意見でまとまりました。



また、ボランティア保険の加入に関しては、金銭を扱うことから、受付とは場所を変えることや管理する担当を決める事など、細かな点についても意見交換ができました。

区によって災害ボランティアセンターを開設する場所が異なりますが、その場所に合った使用の仕方を事前に考える事で、災害ボランティアセンターの運営がスムーズになるという事も確認しました。

特に災害ボランティアセンターの中で、どこで何をしているか分かりやすく表示をするために、入口付近に配置図を掲示することや天井から“受付”、“保険”などの看板を吊るす、他にも床に順路を示すなど各区の工夫している点が分かり、とても有意義な情報交換の場となりました。

栄区でも来年 1 月 9 日に災害ボランティアセンター開設・運営訓練を実施します。

今回、B ブロック会議に参加して得た情報も踏まえて、実施できたらと思います。

次回 磯子区担当

2月20日(火) 18:30~20:00

ブロック会議とは、災害時に区を越えて協力できるよう、横浜市を4つのブロックに分けて、年に2~3回の会議を開催。Bブロックは、栄区・港南区・磯子区・戸塚区・金沢区の5区で構成されています。

○第 23 回 「さかえ・ふれあい運動会」雨天の中での開催でした

日 時 : 10月21日(土) 会 場 : 桂台中学校体育館

栄区障害者ふれあい交流事業として開催している「ふれあい運動会」、長い歴史の中で2年前に初めて雨になり体育館での開催を余儀なくされましたが、今年も雨になってしまいました。

ところが、縮小したプログラムの、スプーンレース、玉入れ、音楽の祭典、パン食い競走、みんなでダンスを全員で心から楽しみ、大いに盛り上がりました。

特に最後のダンス「カモンカナガワン」は、グラウンドとは違い、当事者や中学生、ボランティアが入り混じってお互いの息が感じられる程の近さで音楽に乗って踊ることができ、体育館ならでのことでした。ただ、雨になると、参加できない団体があり、また、楽しみな綱引きやリレーもできないので、やはり晴天の中で開催したいよね、とは皆の気持ちです。



記:大森眞由美

会員紹介

現在、災ボラの会員数は、個人会員 38 (+家族会員 5)、団体会員 32 となっています。会員の防災への取り組みをご紹介します。

◆男性ボランティアいでたちの活動

災ボラネットに団体加入しております男性ボランティアグループいでたちの防災関係の活動をご紹介します。

「いでたち」は平成 10 年に設立しもうすぐ 20 年になります。現在会員 58 名と女性の賛助会員 10 名です。一人暮らし高齢者や障害をお持ちの方のお宅の庭の手入れなどや、様々な施設のイベント等のお手伝い、パソコン指導、小中学校での福祉教育のお手伝いなどを行っています。

詳しくは「いでたち」→検索でホームページをご覧ください。

災ボラには平成 18 年 10 月の発足当時から加入しております。会員が栄区内で男性主体ということで災ボラの目的達成にふさわしい訓練参加や家具転倒防止関係の展示など役割が出来ると考えており、いでたち内部に「防災ネットチーム」という組織を作っております。

独自の具体的活動として、平成 16 年 10 月の台風 22 号による柏尾川沿川の被災者支援活動を最初に、平成 17 年 5 月に会員の意識向上と行動規範を定めた「いでたち防災の手引き」を作成しました。その後平成 25 年にはインターネット上での「横浜防災」に参画し、「いでたち防災」を立ち上げ、非常時の対応を行うこととしています。そのほか平成 20 年度から家具転倒防止工事を区内の住宅、施設で実施しております。



記：菊地 賢三

◆こだちの会 防災の取り組み状況

平成 14 年に精神障害者が地域で生活できるようにグループホーム開設に向けて市民団体こだちの会が設立されました。平成 18 年に「障害者自立支援法」(平成 25 年より「障害者総合支援法」)施行に伴い NPO 法人に移行、現在に至っています。

平成 16 年に公田町にグリーンコーポ、平成 25 年にオレンジコーポを開設、現在合わせて 11 名の利用者が 2 つのホームで生活しています。

ホームでは開所当時より年 2 回の防災訓練を実施しています。また、町内会の防災訓練や地域防災拠点訓練にも参加し、地域の方々との交流を図っています。その他、業者による防災設備法定点検、利用者各人の防災用品とホーム備蓄品の点検を利用者本人と防災担当の理事・ホーム職員とで定期的に行っています。夜間は利用者のみになるため、緊急災害時の行動についての周知や急傾斜地指定区域内にグリーンコーポがあるため土砂災害避難マニュアルを作成するとともに、区役所・地域の防災担当の方や消防団との連絡を密にし、随時連携がとれるようにしています。

記：藤田 みちる



地域防災拠点での訓練参加



栄消防署によるホームでの訓練



※こだちの会 会員 60 名、賛助会員 29 名 賛助会員募集中 一口 1000 円/年



講演：“受援力”を高めるために！

～ 地域に寄り添った災害ボランティアセンターとは ～

講師 Nukiito(ぬきいと)代表 高山 弘毅 氏

日時：11月13日(月) 18:30～20:30

場所：横浜市健康福祉総合センター 4階ホール

【「受援力」について】2010年 内閣府が「ボランティアを地域で受け入れるためのキーワード」として提唱しパンフレットも作成、東日本大震災後に少しずつ広まり始めた概念と言われています。

内閣府の行動の直後から 運営委員の中川さんが横浜市内でも紹介の防災講演会(@戸塚区社協など)を開き、展開に努めてきました。

「受援力」は狭義には「支援を受け入れる心構えやスキル」ですが、震災とその後の各種経験を経て、災害ボランティアだけでなく、行政の体制も含めて広義の解釈とその応用がなされてきました。栄区では地域での防災研修会などで徐々に使われてきていましたが、昨年12月の第2回栄防災研修会で、この「受援力」を表面に掲げて 防災拠点の方々と行った討議によって一挙に広められてきたと感じ、今回の高山氏の講演はその再確認の良い機会になりました。

【講演の概要と共感する点】

① 災害 VC を立ち上げる上で必要な地域の視点とは

要は平時と被災時の地域のありようの違いや変化に気が付く、それに対応して動けること。マニュアルはある事態にどう対応するか知らない初心者に対して示し教えるための文書。しかし事細かな規程で制限すると組織に柔軟性を欠き、邪魔になることもある。

② 災害 V を受け入れる地域の実際の声は

地域には日頃から困りごとを抱えた人が沢山居る。災害時にはこの困りごとが一気に増える。ご近所の助け合いが機能しないところを災害Vの助けを借り、被災者の自立・生活再建を目指す。ただ本来は「公助」のものをV活動に負わせていないか、注意が必要。災害VCの3原則「被災者中心」「地元主体」「協働」

③ 地縁でない団体どう付き合うか

地縁型とテーマ型。横浜の災害ボラネットは地縁型かつテーマ型。「前橋〇〇部」も同様だが、2014年の大雪の雪掻き時に「育英祝杯部」はテーマ外の問題を 日頃のつながりと周辺からの多くの共感も得て解決している。

④ 地域に寄り添う災害 VC になるために、どのようにニーズを聞き取るか。

活動が目的ではない、泥掻きの向こうの人(被災者)を見よ。

【後記】「受援力」を伝える講演でしたが、講演中に「受援力」の定義などは出さず、見事に「支援」と「受援」、「平時」と「災害時」を描き、災害V、災害VCの意識の持ち方が示されました。

これは栄・防災ボラネットが「地縁型」であり「テーマ型」であること、同時にニーズの吸収に恰好の福祉基盤を生い立ちにする組織であること、そのニーズの取得に際して被災者の裏の事情に気付き、見つけ出せる位置にいて、かねてからその方向を指向している点を再認識しました。

参 加：宇田川、中川、早福、宇都宮(記)

ホームページをご覧ください！
「栄防災ボラネット」で検索してください。

横浜栄・防災ボランティアネットワークへの連絡は
栄区社協：TEL 045-894-8521
FAX 045-892-8974